

RPPC メールマガジン 第 785 号

リサイクルポート推進協議会（令和元年 7 月 31 日）

■事務局からのお知らせ

1. 令和元年度 第 1 回 調査研究部会について

日時：8 月 1 日（木）13:30～

場所：みなと総合研究財団 3 階 会議室

〒東京都港区虎ノ門 3 丁目 1 番 10 号第 2 虎の門電気ビルディング 3 階

■リサイクルポートに関連する最新の情報

1. 高田港湾局長が就任会見。コンテナ戦略港湾、ブルーカーボンなど

7 月 9 日付けで国土交通省港湾局長に就任した高田昌行局長は 7 月 22 日、専門紙との会見で就任の抱負やコンテナ戦略港湾政策、洋上風力、ブルーカーボンなど地球環境問題等に重点的に取り組む考えを語った。

就任の抱負では、「貿易量の 99・6%は港湾、0・4%は空港からで 100%が『港』からとなっている。入口であり出口である港を元気にすることで日本が成長できると感じている。

『港の元気がなくして日本の成長なしという』という気概を持って取り組んでいきたい」

また注力する取組みとして、国際コンテナ戦略港湾政策では、AI ターミナルの実現、港湾関連データ連携基盤の構築等に向けた取組みを進め、港湾物流全体の生産性向上を図って行く。

このほか洋上風力、ブルーカーボンなど地球環境問題に関する港湾の取組みについて、「洋上風力は促進区域の指定に向け、関係機関の調整を進めており、早ければ年内に指定する。またブルーカーボンについては 6 月に検討会を立ち上げた。森林等と同様にブルーカーボンを CO2 の吸収源として位置付けてもらうことを念頭に、今年度は解決すべき課題整理、方策の検討を進めて行く」と話した。

2. 汐見沖地区水深 12m 岸壁、早期具体化へ土質調査等

近畿地方整備局大阪港湾・空港整備事務所は、堺泉北港の汐見沖地区岸壁（マイナス12m）の設計に必要な土質調査や解析調査を行う。調査結果は同岸壁の設計業務に反映する。

早ければ今年度から基本設計に入ることも考えている。

汐見沖地区の対象岸壁は今年改訂になった堺泉北港の新しい港湾計画に沿った事業。大阪府では今年3月の港湾計画の改訂で汐見沖地区において、中古車などを中心としたPCC船の大型化に対応し、既定計画の水深11m岸壁を水深12m延長300mに、また水深13m岸壁も延長300mに変更している。

今回の取組は同計画に基づき、マイナス12m岸壁1バースを対象に調査を行い、早期具体化を目指す。

3. 北九州港新門司地区、新フェリー受入れで陸上地盤改良

九州地方整備局北九州港湾・空港整備事務所と北九州市港湾空港局は、SHKライングループの北九州港と横須賀港を結ぶフェリー就航計画に伴い、北九州港新門司地区においてフェリー受入れに向けた事業に取り組んでいる。同フェリーは令和3年春に就航する。

フェリー受入れ計画が進んでいるのは北九州港新門司地区のマイナス10m岸壁延長230m。新門司地区津村島の南側に位置する港湾用地で、現状はケーソン式護岸で囲んだ港湾関連用地になっており、市が埋立造成中。

フェリー受け入れにあたっては既設の護岸を活用し、同護岸に船舶接岸に必要な関連施設を取付けて対応していく方針。

現在計画している港湾事業としては、市が用地造成を進めるとともに、直轄事業として岸壁直背後のふ頭用地エリア（約4500平方m）を対象に、上載荷重に対応して事前混合処理工法による地盤改良を行うことになっている。同改良は本年度事業で完了する見通し。

【港湾空港タイムス7月29日号から編集】

////////////////////////////////////

発行者：RPPC 広報部会

部会長：新谷 聡 りんかい日産建設（株）

部会員：丸岡 裕人 日本製鉄（株）

友歳 巖 五洋建設（株）

安藤 彰 東京都

齋藤 憲雄 山形県リサイクルポート情報センター

リサイクルポート推進協議会 事務局

一般財団法人みなと総合研究財団（内） 担当：押田、清水、安田

URL: <http://www.rppc.jp/> E-mail: rppc_jimukyoku@wave.or.jp

////////////////////////////////////

■会員主催や会員に関係した催し物（セミナーなど）の情報がありましたらご連絡ください。

開催案内等の情報をメルマガで配信致します。

■メルマガ配信先に変更がある場合、事務局までご連絡ください。

■メルマガに関するご意見、ご要望がありましたらご連絡ください。